WORLD THOROUGHBRED RANKINGS 2010

The official listing of the top horses in the world in 2010

2009 年に活躍した馬のレベルは高く、これに追随するのは非常に難しいように思えたが、今回発表のワールドサラブレッドランキングでは 2010 年はこれに匹敵するだけのレベルにあったということが証明された。

World Thoroughbred Rankings
Top 10 horses in 2010

Rank	Horse	Rating	Trained
1	**HARBINGER (GB)**	135	GB
2	**BLAME (USA)**	129	USA
3	**MAKFI (GB)**	128	FR
3	**QUALITY ROAD (USA)**	128	USA
3	**WORKFORCE (GB)**	128	GB
6	**CANFORD CLIFFS (IRE)**	127	GB
6	**NAKAYAMA FESTA (JPN)**	127	JPN
8	**CAPE BLANCO (IRE)**	126	IRE
8	**RIP VAN WINKLE (IRE)**	126	IRE
8	**SO YOU THINK (NZ)**	126	AUS

トップに立ったのは**ハービンジャー【135】**である。同馬は 7 月にアスコット競馬場で行われたキングジョージ 6 世＆クイーンエリザベスＳ(G1)を、ライバル達を尻目に 11 馬身差の大差で圧勝した。これは 1992 年の**セントジョヴァイト【135】**と並んで、この競走の歴代優勝馬の中で最高レーティングである。

また、このレーティングは 2004 年のワールドサラブレッドランキング創設以来、2400m 以上の競走における最高値でもある。同ランキングにおいてこれを上回るのは**シーザスターズ【136】**のみである。

ハービンジャーは 2010 年に 4 戦して無敗であったが、故障により引退を余儀なくされたのは非常に残念であった。

ワークフォース【128】はキングジョージでは同きゅう舎の**ハービンジャー**に完敗、5 着となりレーティングもベストには届かなかったが、6 月の英ダービー(G1)を 7 馬身差のレコードで制し、10 月の凱旋門賞(G1)では**ナカヤマフェスタ**

【**127**】をアタマ差退けるなど、その真価を発揮した。同馬は英ダービーと凱旋門賞の両方の競走を制した 6 頭目の馬である。

ナカヤマフェスタは 2010 年の日本調教馬でトップとなった。また、**ブエナビスタ【121】**は天皇賞（秋）(G1)での圧倒的なパフォーマンスとそれに匹敵するジャパンカップ(G1)でのパフォーマンス（１位入線 2 着降着）により、日本の牝馬トップとなった。

マクフィ【128】は**ワークフォース**と並んで 2010 年の 3 歳馬全体でトップとなった。同馬は 5 月の英 2000 ギニー(G1)で**ディックターピン【124】**や**カンフォードクリフス【127】**を破った後、8 月にドーヴィルで行われたジャックルマロワ賞(G1)では**ゴルディコヴァ【125】**と**パコボーイ【124】**を降し、生涯最高の評価を得た。

ゴルディコヴァはロートシルト賞(G1)とブリーダーズカップマイル(G1)を 3 年連続で制するなど、5 つのＧ１競走を制し、順調に 1 年を過ごした。11 月にチャーチルダウンズで見せた圧倒的なパフォーマンスにより、史上初となるブリーダーズカップ 3 連覇を成し遂げ、通算のＧ１競走優勝を 12 勝とした。2008 年のランキングでは**ザルカヴァ【128】**に次いで牝馬の 2 番手であったが、過去 2 年は芝の牝馬部門でトップを維持している。

ダート・人工馬場部門では、**ゼニヤッタ【125】**が、ヴァニティＨ(G1)、クレメントＬ．ハーシュ(G1)、レディーズシークレットＳ(G1)の各競走 3 連覇を含む、Ｇ１競走 5 勝を記録し、Ｇ１優勝を通算 13 勝とした。
同馬は**ゴルディコヴァ**と牝馬部門のトップで並んでおり、また牝馬のダート・人工馬場部門において 2 年連続トップとなった。残念ながら、ブリーダーズカップクラシック(G1)では**ブレイム【129】**を捉えきれず、惜しくも 2 年連続制覇を成し遂げることはできなかった。11 月 6 日のこの出来事は決して忘れ去られることはないだろう。

ブレイムは 2010 年当初は 117 ポンドであったが、この 1 年間で格段の成長を見せた。
5 月にピムリコ競馬場で行われた G3 を制した後、6 月にスティーブンフォスターＨ(G1)と 8 月にはサラトガ競馬場で行われたホイットニーＨ(G1)を制した。この競走では**クオリティロード【128】**を降している。
同馬にとっての 2010 年唯一の敗戦は、**ヘインズフィールド【121】**に敗れた 10 月のジョッキークラブゴールドカップ(G1)であるが、翌 11 月にはブリーダーズカップクラシックで**ゼニヤッタ**の末脚を封じ、見事巻き返した。

ブレイムのブリーダーズカップクラシックにおけるパフォーマンスは、**クオリティロード**より 1 ポンド高く評価され、ダート・人工馬場部門全体におけるトップとなった。その**クオリティロード**は 2 月のドンＨ(G1)を 12 3/4 馬身差で圧勝、

ホイットニーHでは**ブレイム**の 2 着となり、ダート・人工馬場部門のMコラムでトップとなった。

ダート・人工馬場部門の 3 歳トップの座は**エスケンデレヤ【124】**と**ルッキンアットラッキー【124】**が分け合った。

エスケンデレヤはファウンテンオブユース(G2)とウッドメモリアル(G1) を圧勝、故障で引退するまでの 2010 年前半に輝かしい実績をのこした。**ルッキンアットラッキー**は5月のプリークネスＳ(Ｇ１) を制した後、8月のハスケル招待Ｓ(G1)では4馬身差で圧勝、ベストの評価を得たものである。

スプリント部門は南半球調教馬の独壇場であった。その頂点に立ったのが、11月のパティナックファームクラシック(G1)を 4 馬身差で制した**ブラックキャビア【123】**である。これは、2004・2005 年の**サイレントウィットネス【123】**、2007・2008 年の**セイクリッドキングダム【123】**の香港調教馬 2 頭と並び、ワールドサラブレッドランキングの芝スプリント部門において歴代トップの評価である。

ジェイジェイザジェットプレーン【122】は 12 月の香港スプリント(G1)において、**ロケットマン【121】**や**セイクリッドキングダム【121】**を降し、生涯最高の評価を得た。これにより、2008 年の**ポケットパワー【121】**を抜いて、ワールドサラブレッドランキング史上、南アフリカ調教馬としてはトップとなった。

スプリント部門 3 歳トップは**スタースパングルドバナー【121】**である。同馬は母国オーストラリアで実績を積んだ後、英国に遠征、6 月のゴールデンジュビリーＳ(G1)と 7 月のジュライＣ(G1)を制した。

南半球調教馬トップの栄誉は**ソーユーシンク【126】**に与えられた。同馬はヤルンバＳ(G1)とマッキノンＳ(G1) を制し、2010 年ランキングのトップ 10 入りするとともに、2004 年のランキング創設以来、オーストラリア調教馬として過去最高の評価を得た。
リップヴァンウィンクル【126】は古馬の芝Ｉコラムで**ソーユーシンク**と並んでトップとなった。また**ケープブランコ【126】**は 3 歳芝Ｉコラムのトップとなった。

ソーユーシンクは 8 月から 10 月にかけて、4 つの Ｇ１競走を含む、1400m～2040mの競走を 5 つ制し、また 11 月のメルボルンＣ(G1)でも 3 着となった。この競走ではベストの評価には及ばなかったものの、**アメリケイン【121】**の 3 着で 122 ポンドとなり、Ｅコラムトップの評価も得ている。